

推 奨 実 践 事 例

事例番号 5 - 6

認め合い、高め合える集団をつくるための話し合い活動の充実

愛媛県松前町立松前中学校 兵 頭 しづか

実践テーマ	『認め合い、高め合える集団を作るための「話し合い活動」の充実』
実践区分 ○囲み	学級活動・ホームルーム活動 児童空き・生徒会活動 クラブ活動 学校行事 その他（具体的に、)
実践事例の 背景、ねらい 意義など	<p>第 11 期伊予地区教科等研究会において、特別活動の研究指定校となり、平成 27 年度から 3 年間にわたって研究を重ね 29 年度に研究発表を行った。</p> <p>本校は、松前町の中心に位置し、生徒数 3 4 2 名の中規模校である。以前から生徒会活動が活発に行われている。運動会や文化祭などの学校行事も生徒が主体となって企画・運営したり、各専門委員会による集会を毎月行ったりするなど、委員会活動も活発である。</p> <p>しかし、研究当初の学級活動や各教科での生徒たちの様子を見ると、自分の言葉で発言したり、積極的に話し合い活動に参加したりできる生徒は多くなかった。そこで、「話し合い活動」の場を学級活動や各教科の授業、朝の会・終わりの会などで設定し、自分の言葉で自分の考えを述べ、練り合う機会を増やせば、認め合い高め合える集団をつくることができ、ひいては本校の教育目標「自らのよさを認め、共に伸びる生徒の育成」につながると考え、本主題を設定し、研究を行った。</p>
実践の時期	平成 27 年 6 月 ~ 平成 29 年 3 月

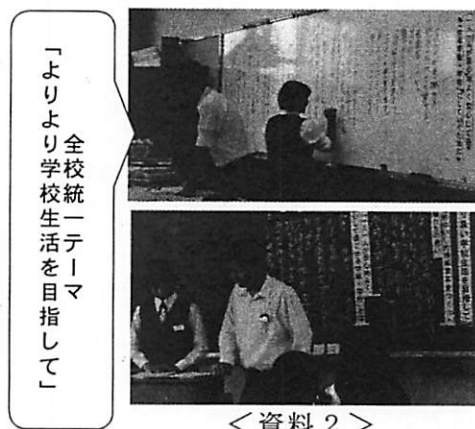
『認め合い、高め合える集団を作るための「話し合い活動」の充実』

【実践事例】

1 研究の取組

(1) 平成 27・28 年度の取組

- ア 学級活動(1)における話し合い活動の「指導案」や「進め方マニュアル」、「話形」の資料収集と作成
- イ 話し合い活動の「指導案」や「進め方マニュアル」を活用した実践（資料 1）
- ウ 全校統一テーマでの学級活動(1)における話し合いの実践（資料 2）
- エ 研究授業の実施
- オ 話し合い活動についての教職員研修の実施
- カ 生徒会活動の活性化



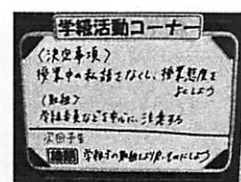
自分の思いや考え・意見を集団の中で発表できる生徒の育成を目指し、学級活動(1)における話し合い活動に焦点を絞り、研究・実践を進めていくこととした。

平成 27 年度には、話し合い活動のための題材や話し合いの進め方マニュアル、指導案などの資料収集、作成を行った。

平成 28 年度には、実践を中心として全校体制で話し合い活動に取り組むこととし、学級活動だけでなく、各教科で話し合い活動の時間確保に努めた。学級活動(1)の話し合いの議題として、全校統一テーマを設定し、全学級が話し合い活動を実施した。また、アンケート結果より、本校には、話し合い活動を好む生徒が多く、生徒自身が多く多くの話し合いの場を望んでいることが分かった。生徒会活動は、役員の提案をもとに、生徒主体での取組を増やしていった。新たな試みとして、東北交流活動の一環として、夏にひまわりの種を植え、とれた種を宮城県と福島県の交流校に送るという活動を行った。

(2) 平成 29 年度の取組

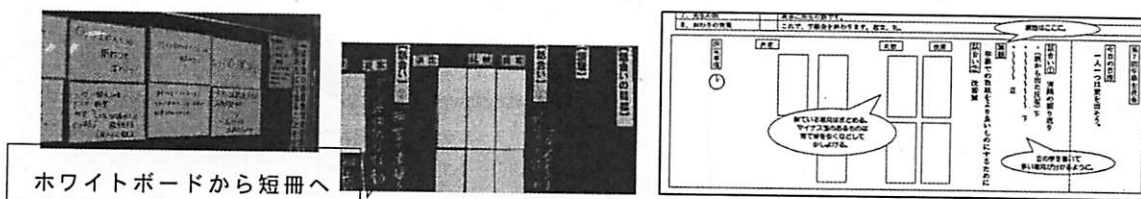
- ア 学級生徒会（専門委員会の目標の反省と各学級の目標決定の時間）の見直し
- イ 司会者育成のための計画委員会・模擬授業の実施（資料 3）
- ウ 学級活動コーナーの設置（資料 4）
- エ 板書計画の見直し（活動の可視化）（資料 5）
- オ 研究授業・授業公開
- カ 各教科における話し合い活動の充実（資料 6）



<資料 3>

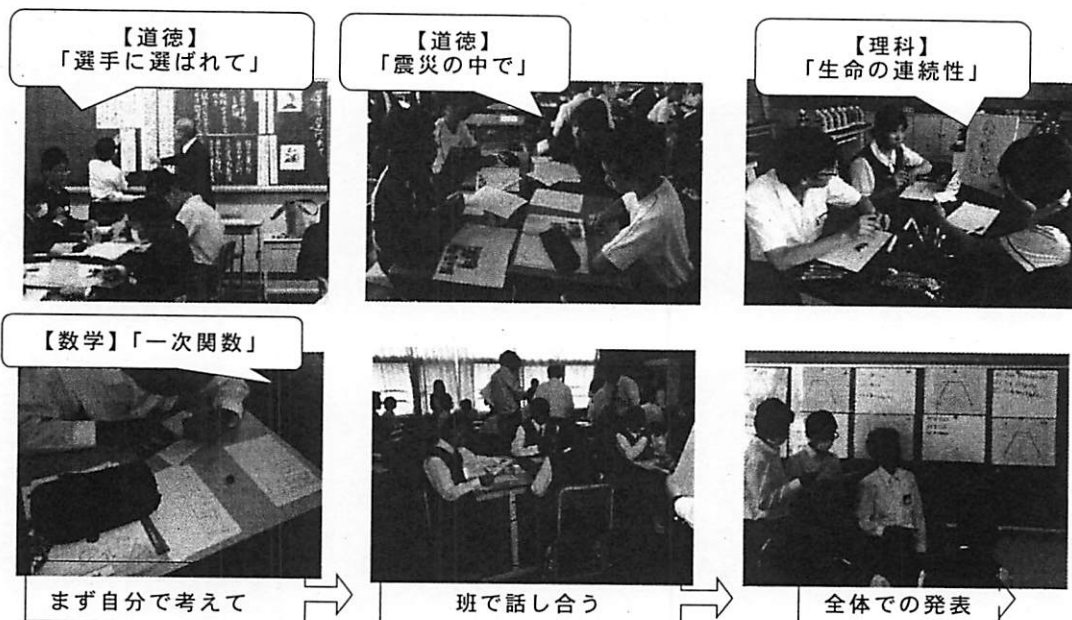
<資料 4>

キ 教職員研修の実施
ク 生徒会活動の活性化



ホワイトボードから短冊へ

<資料5>



<資料6>

月末の終わりの会で行っていた学級生徒会を、学級活動の時間に組み込み、話し合い活動の時間を確保した。それにより、学級の現在の課題がより明確になり、具体的な改善方法を考えることができるようになった。また、自分の意見を事前にかく時間が確保できたことで、全員が自分の考えをもって意見を述べることができた。板書計画の見直しは、話し合い活動の流れを明確にし、審議内容や決定事項の把握が容易になり、話し合い活動のよりスムーズな実施につながった。

司会者育成のために、計画委員会をもち、各クラスの代表者を集め、話し合い活動の流れやマニュアル、板書方法を確認したうえで、模擬授業を行った。3年生が質疑応答の中心となり、的確な意見交換で下級生の見本となる姿が見られた。模擬授業の実施により、生徒が自信をもって司会進行ができるようになり、時間内に話し合い活動を終わるという意識も高まった。

話し合いの力を道徳や教科の授業にも生かせるよう、授業展開の中に話し合い活動を積極的に位置づけた。道徳では、「考え、議論する道徳」への転換を図るために、話し合い活動が授業改善の手立てとなった。各教科の授業では、話し合い活動を取り入れたことで、自分一人では考えられない意見にふれ、自身の考えを深め、新しい考えを見つけ出すといった練り合いも行われた。

生徒会活動も役員や生徒からの提案が増加した。例年行っている東北応援の横断幕づくりに全校生徒が参加できるよう工夫したり、運動会でのブロック制を生かし、プ

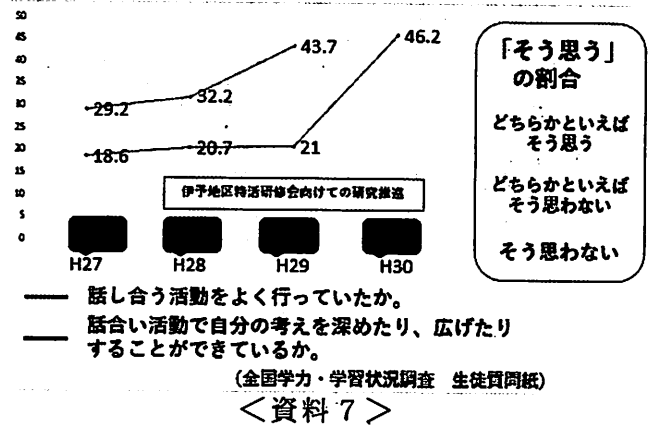
ロック対抗でアルミ缶やペットボトルキャップの回収に取り組んだりするなど、ボランティア活動の活性化にも努めた。

2 成果と課題

(1) 成果

全校が一つの目標に向かって継続して活動したことが、大きな収穫となった。

学級活動の時間で身に付けた話合いのスキルを生かして、各教科や道徳の授業などで積極的に話合い活動を取り入れ、繰り返し行うことで、生徒の話合い活動に対する抵抗感が減った。司会進行もスムーズになるなど、話合いのスキルが向上し、話合い活動が日常的な学習活動として定着した。道徳の授業では、多様な価値観の交流ができ、自分の生き方を見つめ直すことができた。また、教科の学習でも、深く考え、自分の意見を持ち、発表することができ、科学的思考力や判断力、表現力を高めることにつながった。そして、生徒自身が話合い活動の必要性・有用性を感じていることも分かり、継続した取組の成果を感じることができた。(資料7)



さらに、全国学力・学習状況調査の記述式問題の正答率が上昇し、無答率も記述式問題のほとんどで県平均以下の結果となった。特に、2年間話合い活動に取り組んだ平成30年度の3年生の話す・聞く領域の問題の正答率は、県平均・全国平均を上回り、活用問題の正答率は、県平均・全国平均を大きく上回った。また、2年生では、愛媛県学力診断調査の国語科における話合い活動の司会者の役割や質問内容を考える問題での正答率が県平均を大きく上回るなど、話合い活動が学力向上の一端になったと考えられる。

学級生徒会の在り方を見直したことで、生徒自身が自分たちの実態や現状に即して課題を見つけたり、解決方法を決めて実践したり、その取組を振り返り、良かった点や改善点に気付いたりできるようになった。これらの取組によって、集団や自己の新たな課題の発見や目標の設定が可能となり、生活を更により良くしようという次の活動への動機付けとなるなど、生徒が主体的に活動できるようになった。学校内外を問わず、大集団の中で意見を発表できる生徒が増えたことも、成果の一つと考えている。

(2) 課題

毎月1回、学級活動の中で話合いの時間を確保することが困難であることや、議題の選定やねらいを明確にしておかなければ、話合いが深まらず、ただの意見の羅列になってしまうことなどがあげられる。話合い活動には、準備も含め多くの手間と時間がかかるが、この3年間で得た好循環を継続していくために、話合い活動の効率化を図るとともに、生徒がより主体的に取り組める授業について研究していきたい。